

教育懇談会@本学会場と**同日開催**

保護者と学部生対象

『大学院進学ガイダンス』

大学生と大学院生の学生生活はどう違うの？大学院に進んだら就職や進路はどうなるの？
大学卒業後の進路選択を家族で話し合うための情報収集の機会として、是非ご参加ください。

日時: 9月22日(日)13:00~15:00

場所: 福岡工業大学 FIT ホール / オンライン(ライブ配信)

プログラム:

第1部 (会場/オンライン)

- 概要説明: 大学と大学院の違い、進学のメリットについて
- 先輩の体験談: なぜ進学したのか、どんな研究生生活を送って、どんな進路に繋がったのか

第2部 (会場参加者のみ)

- ポスターセッション: 各専攻の院生と専攻主任による研究テーマの紹介や質疑応答
- 学内施設見学(希望制)

主催: 福岡工業大学大学院 工学研究科・社会環境学研究科

参加方法:

会場/オンライン参加について、次の Forms よりお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/Db3KNFcjRt>



※オンライン参加の方法については、申し込み後にご案内いたします。

※教育懇談会から引き続き本学会場にて参加される方は、教育懇談会受付で学食オアシスの利用券をお渡ししますので昼食にご利用ください。

ご不明な点や質問がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

福岡工業大学 大学院事務室 ☎092-606-6996 ✉master@fit.ac.jp

参考(昨年度アンケートより)

「大学院進学について理解が深まった」 平均評価 ★★★★★(4.28)

- ・大学院進学について、研究活動のこと、就職のことなど様々なことが分かりました。
- ・これまで大学院での学習、研究のスケジュールを全く知らなかった。「研究」というものを初めて、その深さを推し量ることができた。
- ・大学院生の就職活動スケジュールなど詳しく発表されていたのでよくわかり分かりました。院生による就職活動が知りたくて来ましたが、参考になりました。
- ・学部と院の違いもわかっていなかったのでオンラインでも参加できてよかったです。行けるなら、ぜひ進学させたいと思いました。
- ・大学院進学は頭にありませんでしたが参考になりました。選択肢の一つとして息子と話したいと思いました。
- ・研究活動を専門的に行うことができると分かった。大学に比べて技術者として身につけられることが多いと分かった。
- ・魅力はあるが、向き不向きがあるかと思いました。
- ・大学院進学は、本人の覚悟が必要だと感じました。
- ・現在2年生で、大学院進学か就職かで迷っている様子。本人が相談してきたときにアドバイスできるよう今回参加しました。大変有意義な時間でした。ありがとうございました。



ワンランク上の就職を実現する 大学院進学

学部4年間で培った「実践型人材」を基にして、さらに大学院修士課程への進学により
高度の研究力・専門性と開発力を有する技術者として、大手企業などでの活躍の幅が広がります。

専攻一覧

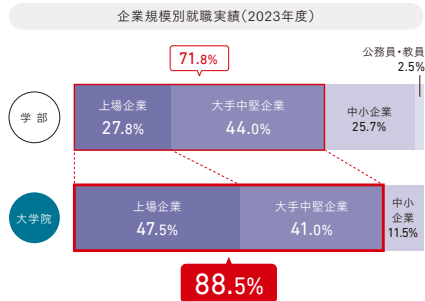
本学では、3学部9学科すべてに対応する大学院2研究科9専攻を擁しています。



比較で読み解く 就職に有利な大学院進学

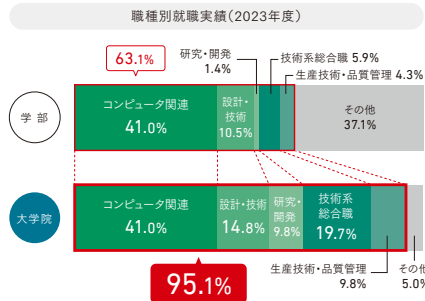
上場・大手企業への就職

大手企業の技術系採用の大半は院卒者が占めています。大学院へ進学することで、より質の高い就職先を選択できます。



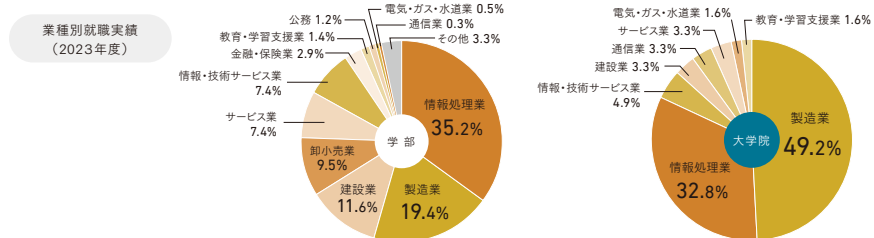
技術者としての活躍

技術系採用の中でも、特に研究・開発職、設計・技術職として多く採用されています。



モノづくり分野への就職

大学院でより高度な研究力と開発力を培うことで、モノづくり分野での活躍が多くなっています。

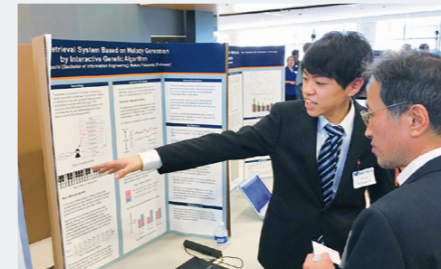


技術者としての素養を磨く・積む・高める 大学院での研究活動

大学院では、学部で取り組んだ卒業研究をさらに高度かつ実践的に発展させた特別研究を行います。特に工学系学部の大学院進学率は高く、全国平均37.1%、国公立大では6割が進学します。修士課程修了後は、技術者として就職する他にも、博士後期課程へ進学して研究者としてのキャリアを積むことができます。

主な進学先(博士後期課程)

福岡工業大学大学院、九州大学大学院、九州工業大学大学院、筑波大学大学院、名古屋大学大学院、東北大学大学院、熊本大学大学院、北九州市立大学大学院 など



豊富な学会発表の実績

修士課程の学生は、修了までに国内外で平均3.5回の学会発表を行い、研究者としての素養を身につけます。また、学会表彰は毎年約20件にのぼり、高い実績を上げています。



ジュニア研究者としての研鑽

産官学の共同研究に指導教員とともに大学院生も従事しています。また、科研費の研究協力者として先端の研究分野での経験を積み、研究開発能力とプロジェクトリーダーの資質を養います。

CHECK!

内部進学を後押しするさまざまな支援について

6年一貫教育「FIT-Tech(Top Engineer Challenge)プログラム」が本格スタート!

学部(学士課程)4年と大学院(修士課程)2年間の6年間を一貫して学べるプログラムを導入します。学部2年次後期から研究体験として、研究室訪問やゼミ、卒業研究発表会の聴講などに参加します。すべての学科で3年次後期までに研究室に早期配属され、早期からの研究活動と、大学院での専攻を超えた分野横断のコースワークに取り組みます。大学入学後1年次に一定の学業成績と研究活動への意欲を有するすべての学生にチャンスがあります。6年一貫教育の利点を生かし、卒業研究と特別研究を通じた最大3.5年間の研究活動を通じて、研究実践力を養成します。



低く抑えた学費と充実したサポート

- 内部進学者は入学金免除、相対的に低額な授業料。さらに約60名を対象とした学業特別奨学金を用意
- 第一種奨学金(日本学生支援機構)の返還免除(全額・半額)に受給者の1/3にあたる約10名が毎年採用
- 学生会費補助により国内外での学会参加費用をほぼ全額補助。学生の活発な学会発表を実現
- TA(ティーチング・アシスタント)制度で学部生の授業運営サポートによる手当支給